



انجمن سلامت خانواده ایران
Family Health Association of Iran



از طرف مردم ژاپن
From the people of Japan



日本政府の支援の下、IPPFイラン(FHAI)が実施する セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス情報とサービスを 提供し、脆弱な人々の健康増進を図るプロジェクト

背景

周縁化された人々のニーズに タイミングよく応える

イランは、世界でも最大級の難民受け入れ国で、現在約400万人のアフガン人が暮らしています(UNHCR推計、2021年)。難民と住民登録のない人々が住む地域では、保健医療、特にセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス(SRH)サービスが受けにくく、貧困、失業、薬物乱用、就学率の低さ、暴力などと並ぶ深刻な問題です。

特にこの地域に住む女性と少女たちは脆弱で、スティグマ(汚名)、情報不足、費用等の問題が重なり、母子保健ケアを十分に受けられないことがたびたびあります。新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、医療サービスはさらに遠のき、家庭内暴力(DV)件数も増えています。

2021年8月に始まった「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスの情報とサービスを提供して脆弱な人々の健康増進を図るプロジェクト」の目標は、これまでサービスを受けられなかった人々にSRH、DV防止、依存症の害を減らす支援などの情報とサービスを届けることです。アフガン難民だけでなく、周辺住民もプロジェクトの恩恵を受けています。



(上) コロナ下でDV防止と健康な生活についてのセミナーを受ける女性たち

(下) 悩みや健康な生活についてカウンセリングを受ける女性利用者

概要

最も必要とする人にサービスを届ける

プロジェクトでは、テヘラン周辺在住の脆弱で周縁化された人々向けのSRHサービスと情報提供を増やし、より届きやすくするために、次の4つの活動を実施します。

- ① 経験のある助産師と臨床心理士と必要な施設を兼ね備えた特別モバイルクリニックを整備し、各地を巡回してSRHとプライマリー・ヘルスケアサービスを提供します。必要に応じ、他の医療機関への紹介状も出します。
- ② 十分な設備を持つクリニックを整備し、直接サービスを提供します。同時に、周辺住民の男女にセミナーなどで保健情報を提供し、他の医療機関の紹介もします。
- ③ SRHに関する啓発とコミュニティ参加を促すイベントを実施し、難民、周辺的一般住民を問わず、コミュニティの人々の理解と参加を促進します。
- ④ 地域の主要関係者、パートナーと連携して、プロジェクト事業の継続を図るとともに、女性の健康を優先し、暴力の防止を働きかけます。



新型コロナウイルス感染症 のイラン女性への影響

- 感染を恐れ、クリニックに来る女性利用者が減少
- 新型コロナウイルスがSRHよりも優先され、利用低下
- 助産師の訪問、オンラインの診療と研修が増え、来訪者が減少
- 保健省がオンラインの検査をホットラインとウェブサイトを通じて提供した

出典:

<https://www.ippf.org/blogs/covid-19-impact-what-we-know-so-far-iran>

(左)カウンセリングの様子

(右)郊外地域をモバイルクリニックで巡回する助産師



これまでの成果

健康増進に向けた環境づくり

モバイルクリニックによるサービスを提供

調達手続きを終えた新たな車両が届くまで、FHAIで所有する既存のバンを活用して活動を展開しました。助産師と心理士による保健サービスの提供とカウンセリングの実施のほか、新型コロナウイルス感染症の予防活動を行っています。

2021年9月にモバイルチームが提供したSRHサービスは4,986件で、性感染症(STI)、婦人科、出産合併症、不妊治療、泌尿器科関連でした。その他の医療サービスは5,253件提供し、メンタルヘルス、肥満、高血圧などの治療をしました。

クリニックの設立と運営

2021年9月、第1サクラヘルスセンターをテヘランの周縁化された人々が多く居住する12区に開設しました。産前健診、栄養指導、健康チェックなどが受けられるため、地元コミュニティでは期待が高まっています。第2サクラヘルスセンターも設立され、2021年10月にオープンしました。

女性の保健医療へのアクセス向上を目指した医療従事者研修の実施

キャパシティビルディング研修が4回実施され、モバイルクリニックと第1サクラヘルスセンターのスタッフは、DV、STI、プロジェクトについて学びました。

主要なSRH課題への取り組みを支える政策決定を促す環境づくり

FHAIはテヘラン州政府、保健省、テヘラン市の関係者との良い協力関係づくりに努め、プロジェクトで提供するSRHとその他の医療サービス提供について調整しています。

コミュニティでの予防と参加の呼びかけ

コミュニティとの協力関係づくりの第一段階が終わり、今後さらに強化していきます。モバイルクリニックで提供するサービスの内容を広く知ってもらうために、郊外の当局関係者を交えたコミュニティ会合も計画しています。

新型コロナウイルス感染症予防

定期的に感染予防セミナーを開き、必要な予防措置をすべてとっています。個人防護具(PPE)もヘルスセンター等のプロジェクトの活動現場で使用し、広くワクチン接種を呼びかけています。



FHAIのモバイルクリニックで助産師と心理士の診療を受けました。私にとってはなくてはならないものです。ずっとストレスと不安が強かったですが、個別カウンセリングとグループトレーニングを受けて落ち着きました。あと、初めて乳がん検診を受けました。助産師とのカウンセリングでは自分の身体について学びました。

テヘラン南部の地区に住む
ミナさん(31)



第1サクラヘルスセンターで医療サービスを提供する様子

課題と今後の活動

大統領選後の政権交代がプロジェクトと重なり、開始が遅れて計画の見直しが必要になりました。政府からの承認、省庁との調整、スタッフ募集、モバイルクリニックの準備、申請の見直しなどにも影響が出ました。

現在プロジェクトは順調に進んでおり、プロジェクト対象地でのSRH、DV、新型コロナウイルス感染症関連のサービスへのニーズが増えています。そのため、追加の啓発セッションとより密度の濃いコミュニティ参加プログラムを増やす予定です。



//

日本政府の補正予算による支援の下、イランで実施中のこのプロジェクトは、新型コロナウイルス感染症の拡大で、さらに医療サービスが受けにくくなった脆弱なグループにSRHとその他のサービスを提供します。今後は、活動の多くがDV予防関連になります。DVをより可視化して、サービス提供を強化し、関連団体と連携してプロジェクトの継続を目指します。このような大切な時期にご支援くださる日本政府に御礼申し上げます。

IPPFイラン (FHA) 最高執行責任者 (CEO)
ハミド・レザ・アフサリ



女性の医療従事者に情報、研修、ツールを提供しエンパワーメントする



www.fha.org.ir



از طرف مردم ژاپن
From the people of Japan

www.mofa.go.jp



www.ippf.org